

わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

25期(1971/昭和46年)

よく学び？ よく遊ぶ修習生



会員 水津 正臣 (25期)

修習時代の思い出を私が書くと同期に怒られそうです。「自分達はお前と違ってそんなに遊んでいなかったぞ」と。でも、修習時代の私の思い出は、どうしても遊びが中心となります。それが許されるような時代だったということでしょうか。

とは言え、まずは、客観的に25期が置かれた環境から説明をしなければなりません。私達25期は、研修所が紀尾井町から湯島に移った最初の期で、いわゆる湯島一期生です。研修所の場所は、旧岩崎邸の跡だそうです。とても環境が良い所です。環境が良いというのは、静かで勉強にいそむことができるということと同時に、一步研修所の外に出ると御徒町近くなので、居酒屋や雀荘が多くあるということでもあります。

私は、司法試験に合格するまで仕事をしていたので、それまでは遊びを知らずでした？ その反動か修習に入ると講義が終わるや否や、同期から誘いを受けて急いで雀荘に行き、そこで講義の復習をしながら、中国語の勉強をしました。教官の講義は素晴らしい内容でしたが、正直あまり覚えていません。

ただ、私のクラスに一人勉強熱心な人がいて、講義が終了しそうになっても教官に質問をし、教官もまたそれに対して熱心に回答して下さいましたので、私は、そのことが何時も気になり、講義の終了間際は、質問が出ないことばかり祈っていました。私の周りには優秀な人がいましたから、講義後に話をきいたり、ノートを写したりして乗り切ってきました。教官から「同じような答案が見受けられるが、卒業してから苦勞するより、今苦勞しておいた方がよいぞ」と言われたことだけは覚えています。その時は、よくわかりませんでした、今はその通りだと思います。

私の家は東京にありましたが、金沢修習ということで、松戸の寮に入りました。寮生活はとても楽しいも

のでした。私の部屋には、ステレオと雀卓がありましたので、友達がよく訪ねてきてくれました。実務地に散る最後の夜は、寮の中庭に私のステレオを置き、レコードを大音量でかけて、寮生達がダンスをしたりしました。

前期の時にはソフトボール大会も開かれましたし、私のクラスは女子大の女学生との合コンもありました。

実務修習は金沢で、修習生は8人しかおらず、且つ真面目な人達でしたから麻雀の面子がなかなか揃いません。そこで、金沢で購入した中古車に麻雀パイを積んで関西まで行き麻雀をしました。おかげで、後期修習に入ったとき教官から「水津はさすらいのギャンブラーと言われているぞ」と睨まれました。

実務修習では、どこへ行っても熱心な指導と歓待を受けました。この書面をお借りしてお礼申し上げます。特に、弁護修習先の玉田勇作弁護士には囲碁を熱心に教わりました。おかげで現在、東京弁護士会囲碁部の代表幹事を務めるまでに成長しました。

当時、24期生まで2回試験の落第が数名あったので、私もその一人になるのではと夜も眠れませんでした。運よく卒業できました。ちなみに25期生は、落第が一人もいませんでした。

自分が言うのもなんですが「よく遊び、よく学べ」を実践してきたように思います。年よりじみれた感想ですが、司法試験合格者大幅増員後は、知識は豊富けれども、事件の筋や全体をみて判断する力が劣ってきているように思います。法的知識より社会の実状を学んで欲しいと思います。

研修所も湯島から和光に移り、湯島一期生の存在も薄くなったようにも思いますが、世間から頼りにされるような法曹になり、25期生ここにありと思われるように、益々精進したいと思います。